

串間市文化財調査報告書第21集

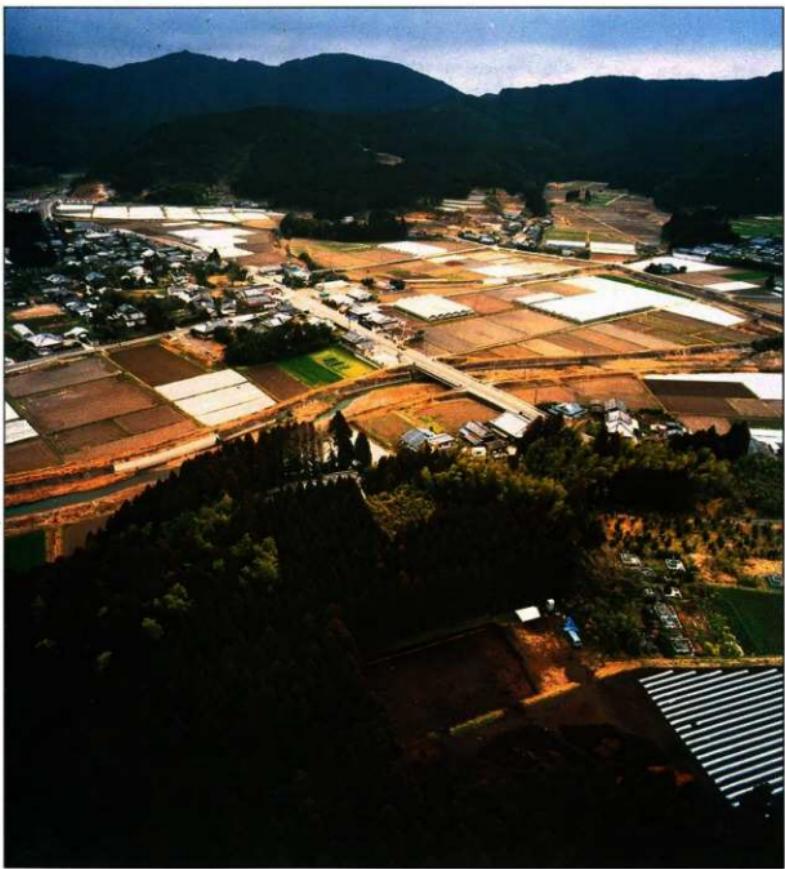
UE SINOBARU

上篠原遺跡発掘調査報告書

エヌ・ティ・ティ九州移動通信網
株式会社携帯電話無線基地局建設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

宮崎県串間市教育委員会



遺跡全景航空写真（都井岬方面を望む）

串間市文化財調査報告書第21集

U E SINOBARU
上篠原遺跡発掘調査報告書



2000

宮崎県串間市教育委員会

序

本書は、宮崎県串間市大字本城における携帯電話無線基地局建設に伴う上篠原遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

串間市内には各種各時代の遺跡が数多く点在しますが、これらの遺跡は串間市の文化遺産であり、当地方の歴史を知る上で貴重な資料です。当教育委員会では遺跡を保護・調査して後世に伝え残すことが現代を生きる者の責務であると捉えて取り組んでおりますが、今回の調査もその一環であり、上篠原遺跡の記録保存についてご理解いただいた事業主のエヌ・ティ・ティ九州移動通信網株式会社に感謝いたします。

上篠原遺跡は、本城地区で本格的に発掘調査された最初の遺跡となり、縄文時代早期の集石遺構や土器・石器が出上するなどの成果を挙げ、この地域の先史時代を探る上で大きな手掛かりを得ることができました。

発掘調査の成果をまとめた本書が学術資料として、あるいは生涯学習、学校教育などの場で広く活用され、また、埋蔵文化財の保護への理解につながれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり甚大な御協力をいただきました関係諸機関及び地元市民の皆様に対して、心より厚く御礼申し上げます。

平成12年3月

串間市教育委員会

教育長 岩下斌彦

凡　例

1. 本書は、エヌ・ティ・ティ九州移動通信網株式会社による携帯電話無線基地局（串間市大字本城字上篠原5646番地）建設に伴う上篠原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡名は小字名による。『串間市遺跡詳細分布調査報告書（I）』串間市教育委員会 1990においては広範囲の池田遺跡の一端であるが、今回の調査は字上篠原内に限定されたため、上篠原遺跡とした。
3. 本報告書で使用した遺構の実測図は宮田浩二、川崎知子による。
4. 遺物・図面の整理は串間市教育委員会において宮田と整理作業員が行った。
5. 本報告書で使用した写真は、上空からのものについては業者に委託し、現場については宮田、遺物については諫訪園達夫（串間市文化会館主事）が撮影した。
6. 本報告書中の方位は、遺跡位置図・遺跡概要図を除いて磁北である。
7. 本報告書中の土色の表記および土器の色調は、小山正忠・竹原秀大編、著『新版標準土色帖』に掲った。
8. 本書の編集は宮田が行った。
9. 遺物や各種の記録は串間市教育委員会で保管している。

目 次

本文 目 次

第Ⅰ章 序説	
第1節 調査に至る経緯	P1
第2節 調査の組織	P1
第3節 遺跡の位置と環境	P1
第Ⅱ章 調査の内容	
第1節 遺跡の立地	P 3
第2節 調査の概要	P 4
第3節 土層の状況	P 4
第4節 アカホヤ面検出の遺構	P 5
第5節 繩文時代後晩期の遺物	P 5
第6節 繩文時代早期の遺構	P 8
第7節 繩文時代早期の遺物	P 8~9
繩文時代早期土器観察表	P 14
結び	P 25
報告書抄録	P 26

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	P 2
第2図 遺跡概要図	P 3
第3図 土層断面図	P 4
第4図 遺構分布図	P 6
第5図 繩文時代後晩期遺物実測図	P 7
第6図 繩文時代早期遺構実測図	P 10
第7図 繩文時代早期遺物実測図（1）	P 11
第8図 繩文時代早期遺物実測図（2）	P 12
第9図 繩文時代早期遺物実測図（3）	P 13

図 版 目 次

図版1 調査状況写真	P 15~19
図版2 繩文時代早期遺構検出状況写真	P 20
図版3 繩文時代後晩期遺物写真	P 21
図版4 繩文時代早期遺物写真	P 22~24

第Ⅰ章 序 説

第1節 調査に至る経緯

今回の調査は、エヌ・ティ・ティ九州移動通信網株式会社による携帯電話無線基地局の建設計画に起因する。

平成10年度当初、当施設設置候補敷地についての文化財有無の照会が串間市教育委員会にあった。当教育委員会では踏査を実施し、結果として周知の遺跡である上篠原遺跡については確認調査が必要であることを連絡。設置地点を当地点に内定した同社の文書による文化財照会を受けて平成10年9月1日から9月3日にかけて確認調査を実施し、遺物・遺構の包装が認められたため、文化財保護についての協議を行い、その結果として発掘調査を施すこととなった。調査は平成11年(1999)1月14日から3月23日にかけて実施した。

第2節 調査の組織

今回の調査は、串間市教育委員会が主体となり実施した。調査体制は以下のとおりである。
平成10年度(発掘調査年度)

教 育 長	岩 下 勝 彦
生涯学習課長	山 田 隆 大
生涯学習課長補佐	永 田 栄 子
文化振興係長	川 上 哲 二 (経費執行担当)
生涯学習課主事	宮 田 浩 二 (調査担当)
発 挖 作 業 員	加藤倭、川崎健治、川崎知子、川崎まり子、鈴木スガ子 鈴木正利、中村光子、那須ケサオ、野辺ヨシ子、水谷アサヨ 木元栄子、安山フジ子、吉田俊枝、渡辺美紀、渡会真美子 渡会美枝子(五十音順)

平成11年度(報告書刊行年度)

教 育 長	岩 下 勝 彦
生涯学習課長	山 田 泰 文
生涯学習課長補佐	測 澄 敏 郎
文化振興係長	川 上 哲 二 (経費執行担当)
生涯学習課主事	宮 田 浩 二 (整理・執筆・編集担当)
整 理 作 業 員	川崎知子、中村光子、渡会真美子

第3節 遺跡の位置と環境

宮崎県の最南端に位置する串間市は日向灘及び志布志湾に面する長い海岸線を有し、これらに注ぐ福島・本城・都井・市木の各河川流域に形成される入戸火碎流を起源とするシラス台地ないし沖積地を主として人間の営みが展開されてきた。歴史上、串間地方の文化・政治・経済の中心は福島川下流域の福島地区にあるが、今回発掘調査を実施した上篠原遺跡の所在する本城地区は、福島地区と低い山稜を界して南東に隣接する。

本城地区では、市木方面からの中園川と都井方面からの黒仁田川を集めた本城川が志布志湾に注ぎ、これら河川沿い両岸の沖積低地に現在の集落が形成され、その背後のシラス台地上に縄文時代から近世までの各時代の遺跡が点在する。同地区では本城川下流域で志布志湾に突出した山稜上に立地し、木土最南端の横穴式石室を有する本城村古墳群(宮崎県指定史跡、現在は鬼ヶ城古墳群と通称する)が歴史的遺産として代表されるが、この他にも本城港が中世明貿易の寄港地として栄えるなど、南九州地方の歴史を語る上で欠くことのできない地区となっている。

上篠原遺跡は現在の海岸線より約2km内陸、中園・黒仁田両河川の合流点に程近い中園川右岸の標高約25mの台地上に位置する。中園川を挟んだ対岸には縄文時代後期の上中園遺跡や道場遺跡、黒仁田川を挟んだ南東側の台地には縄文時代早期から古墳時代にかけての別府原遺跡が所在するなど、周辺は遺跡の密集する地域となっている。



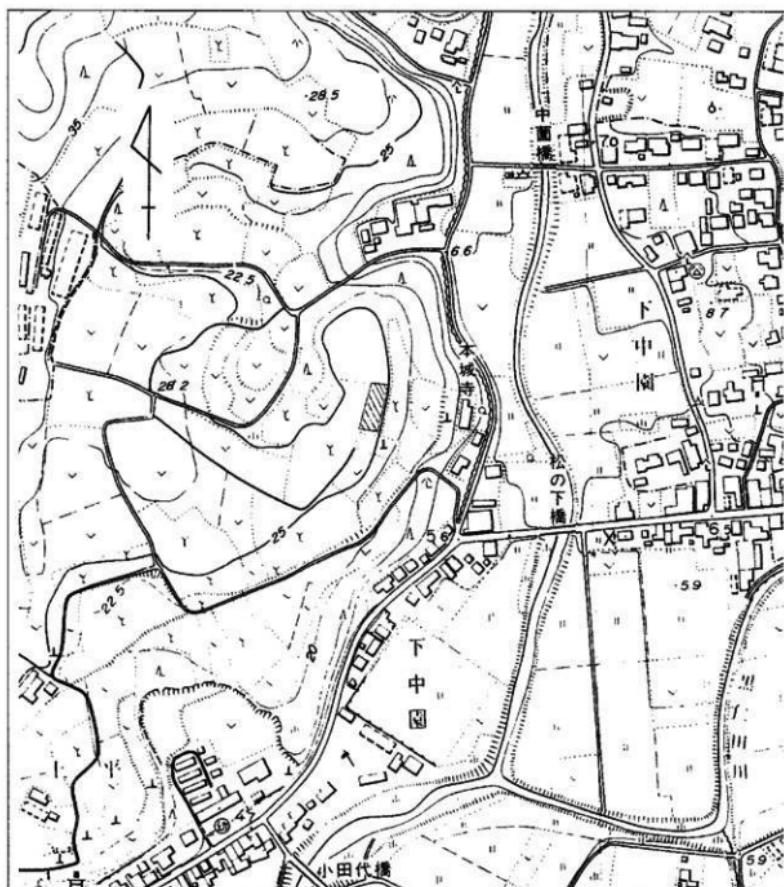
- ①上篠原遺跡 ②上中園遺跡 ③道場遺跡 ④別府原遺跡 ⑤鬼ヶ城古墳群

第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

第II章 調査の内容

第1節 遺跡の立地

上篠原遺跡の立地するシラス台地は南北約500m・東西約300mの平地で、現在は開墾されて畑地として利用されているが、昭和初期以前は照葉樹林の繁茂する原生林だったそうである。調査地点はこの台地の東端に形成された北方向に伸びる舌状台地中の東側に当たり、調査地点より東は眼下の河川へ向けて段丘状に下ってゆく。なお、広大な当台地上は開墾当時から遺物を山上する場所として知られ、平成2年度に実施した遺跡詳細分布調査でも散布が認められたために台地全体を占有面積の広い字池田名を探って池田遺跡としてきた。今回の調査対象地は字上篠原に限定されたため、名称を上篠原遺跡とした。



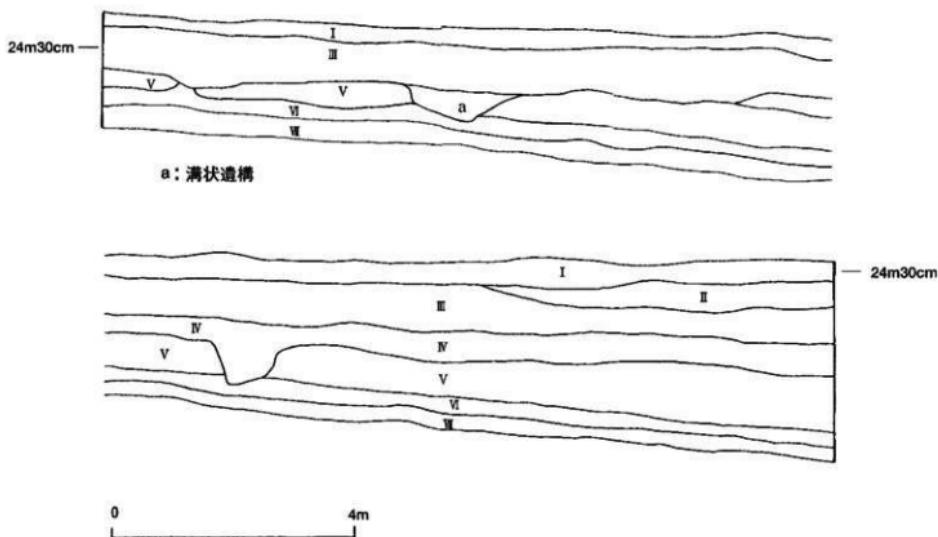
第2図 遺跡概要図 (1/5,000)

第2節 調査の概要

事前の確認調査の結果、遺物包含層はIV層並びにVI・VII層であることが確認されていたためIII層までを重機で除去後、調査対象面積430m²に10mを基準としたA～Fの6区を設定して精査に着手した。調査地の現況は平坦な畠地であったが、旧地形は東方向へ傾斜する地形で、E・F区ではアカホヤ直下までが削平を受け、特にA・B・C区西寄りから傾斜がきつくなり、精査第I面のIV層が残存するのはA・B・C区に該当する300m²ほどであった。IV層に含まれる遺物はそのほとんどが土器小片であるが縄文時代後晩期に相当する。また、アカホヤ面での遺構検出を試み、溝状遺構1条、小規模土坑14基が検出されたが、土坑は遺物をほとんど含まず、時期等を明確にすることはできなかった。なお、溝状遺構からは磨製石斧（半塊）が出土している。E・F区でアカホヤ直下までが後世の影響を受けてはいるものの縄文時代早期に相当するVI・VII層は良好に残存しており、今回の調査のメインとなった。全体像としては上層に比較して礫の量が多く、検出された集石遺構では上位構成礫の損失の感があり、地形も傾斜していることから、礫が移動していることも考慮される。なお、Ⅳ層（薩摩火山灰を含む褐色土）以下も部分的に掘り下げてみたが遺物は出土していない。当調査地より持ち帰り収蔵した遺物数は、IV層出土の土器64点・磨製石斧1点・礫3点、VI・VII層出土の土器238点・磨石5点・石錘1点・黒曜石小片23点・礫4点である。

第3節 土層の状況

前述のように、調査地における旧地形は東方向へ傾斜しており、最も標高の高い部分ではアカホヤ直下までが削平され、押された土が東側に盛られているといったような状況であった。当地における基本層序は以下のとおりである。I層：にぶい黄褐色（10YR4/3）。II層：暗褐色（10YR3/4）。III層：黒褐色（10YR3/2）。IV層：黒褐色（10YR2/2）で部分的に御池ボラ溜まりを含む【遺物包含層】。V層：アカホヤ火山灰。VI層：黒褐色【遺物包含層】。VII層：暗褐色【遺物包含層】。Ⅷ層：褐色でブロック状の薩摩火山灰を含む。



第3図 土層断面図（1/40・北壁）

第4節 アカホヤ面検出の遺構

アカホヤ面で検出された遺構は溝状遺構1条と土坑14基である。

1. 溝状遺構

北壁から南西方向に8m50cmの長さで止まる。検出面からの最深は北壁に接する地点で約12cm、先端地点はなだらかに立ち上がり深さは5cmほどである。埋土は黒色土で、床面はやや硬化しているが、人為的なものかどうかは判然としない。埋土中からは磨製石斧（半壞品）1点及び土器小片3点が出土している。

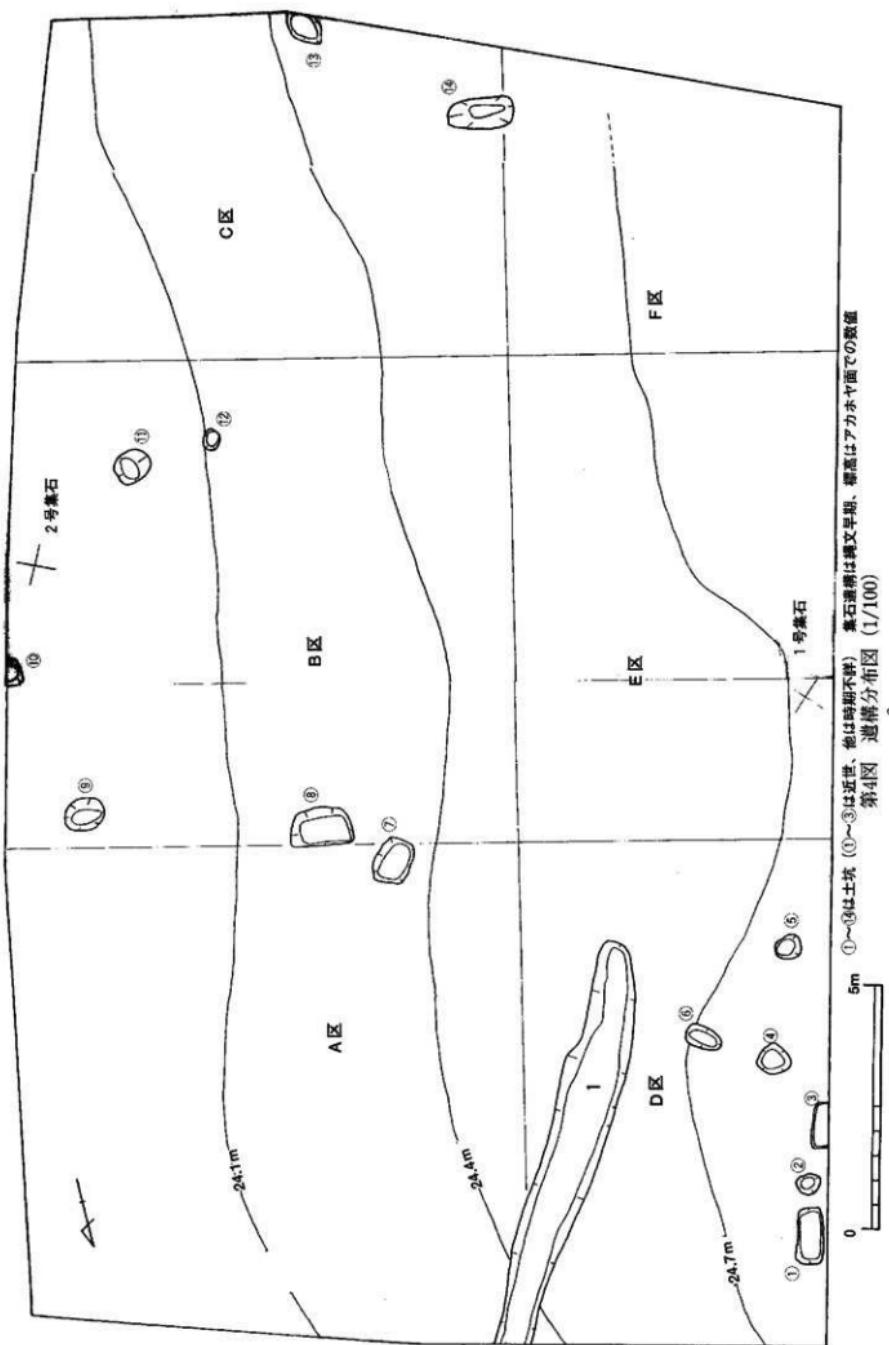
2. 上坑

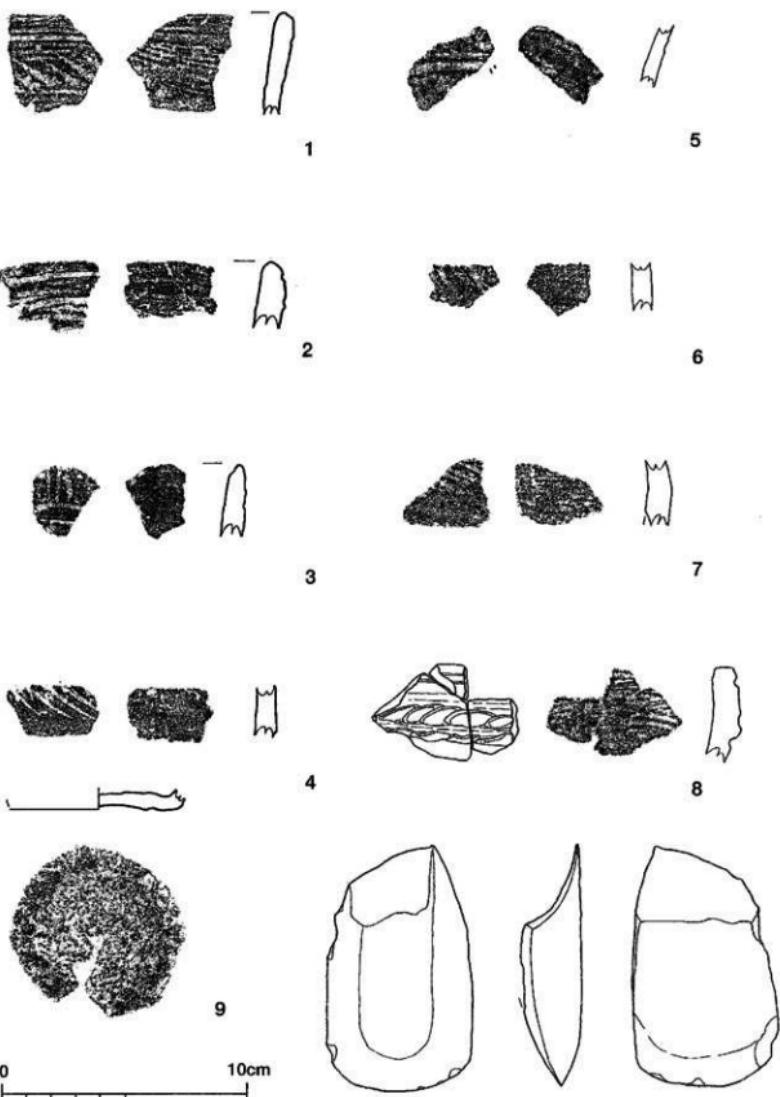
検出された14基のうち、遺構分布図の①～③は近代土坑。④～⑯は時期不詳である。長方形ないし不整形プランを呈するいすれも小型の土坑で、埋土はほとんどが黒色土にアカホヤ粒とボラを含むもので、遺物は含まない。

第5節 繩文時代後晩期の遺物

IV層に包含される遺物であるが、土器については出土量が少なく、その中でも無文土器が大半を占めるために分類するに至らなかった。以下は施文の見られる七器の中からの抽出である。

1. やや丸みのある口唇部を持ち、外面全面に横方向の細い貝殻条痕を施した上に連続する斜方向の貝殻腹縁圧痕文を施す。内面は斜方向の貝殻条痕。
色調；外面暗褐（7,5YR3/4）、内面赤褐（5YR4/8）。
2. 丸みのある口唇部を持ち、外面には横方向3条の細い沈線文を施す。内面はナデ調整。
色調；外面暗褐（7,5YR3/4）、内面黒褐（5YR3/1）。
3. 口唇部から縦方向に3条の細い沈線文を施し、その下位に横方向の2条の細い沈線文が見られる。内面はナデ調整。
色調；外面赤褐（5YR4/6）、内面黒褐（7,5YR3/2）。
4. 外面には工具による斜方向の刻目が連続する。内面はナデ調整。
色調；外面明赤褐（5YR5/6）、内面にぶい褐（7,5YR5/4）。
5. 外面に横方向の細い沈線2条が見られる。内面はナデ調整。
色調；外面黒褐（7,5YR3/1）、内面黒褐（7,5YR3/1）。
6. 外面に工具による斜方向の刻目が見られる。内面はナデ調整。
色調；外面黒褐（7,5YR3/1）、内面にぶい赤褐（5YR4/4）。
7. 外面に斜方向の刻目がかすかに見られる。内面は貝殻条痕の上からナデである。
色調；外面暗赤褐（5YR3/6）、内面明褐（7,5YR5/6）。
8. 若干内反する口縁部で、外面には1条の横方向沈線文の下位に、工具による横方向2条の刺突文が連続する。内面は貝殻条痕。
色調；外面明赤褐（5YR5/8）、内面明赤褐（5YR5/8）。
9. 平底の底部。やや上げ底状を呈し、立ち上がり部分外面に僅かに斜方向の貝殻条痕が見られる。
色調；外面明赤褐（5YR5/6）、内面明赤褐（5YR5/8）。





第5図 繩文時代後晩期遺物実測図（1/2）

第6節 繩文時代早期の遺構

繩文時代早期の遺構としては集石遺構2基が検出された。

1号集石：調査地の北西部においてⅦ層中で検出された。構成礫（71点）は手のひらから小片までの赤変した偏平なものが多く、破碎度が高く、自然状態の礫は数点に留まる。不整形ではあるがⅦ層（ブロック状の薩摩火山灰を含む褐色土）まで堀り込んだしっかりした掘り込みを有し、埋土は黒褐色土に粒子状の炭化物を含む。

2号集石：調査地の南東部においてⅦ層中で検出。構成礫（74点）は拳大以下で赤変及び破碎が目立つ。堀り込みは割合明瞭な楕円形でⅦ層下位で止まり、埋土は黒褐色に粒子状の炭化物を含む。

第7節 繩文時代早期の遺物

VI・VII層に包含される遺物であるが、破碎の目立つ礫が大量に出土したのに対して、土器の量はさほどでもない。但し、小面積ながら平坦な地形を呈するE・F区では塞ノ神式縫糸文を施す土器が集中して出土するなどの状況が見られた。以下では文様による出土土器分類を試みる。

A類（10～13）：塞ノ神式土器のうち、縫糸文を施す類

10. 口縁部が外反し、外面には縦方向の縫糸文を施し、その上から横方向の沈線文（脛部3条、胴部2条）が施される。口唇部にはハの字状の刻目が見られる。内面はナデ調整。
11. 口唇部は破損しているが、口縁部は外反し、外面には縦方向の縫糸文の上から脛部に4条の横方向への沈線文が施される。内面はナデ調整。
12. 脇部で、外面に縦方向の縫糸文、その上から3条の横方向への沈線文を施す。内面はナデ調整。
13. 3に同様であるが、沈線文は8条。

B類（14～19）：貝殻条痕土器類

14. 口唇部に貝殻腹縁による圧痕文を施し、下位には斜方向に目の細かな貝殻条痕を施す。内面にも斜方向の貝殻条痕が認められる。
15. 外面に斜方向のやや太めの貝殻条痕を施す脇部。内面はナデ調整。
16. やや斜方向に太めの貝殻条痕を施す脇部。内面にはかすかにケズリ調整が認められる。
17. 横方向に太めの貝殻条痕を施す脇部。内面はナデ調整。
18. 脇部で外面は傷みが激しいが、横方向に太めの貝殻条痕が見られる。内面には縦方向のケズリ調整が見られる。
19. 脇部で外面には左傾斜の上から右傾斜のやや太めの貝殻条痕を施す。内面には斜方向のケズリの上からナデ調整が認められる。

C類（20～23）；貝殻腹縁ないし工具による圧痕文類

20. やや外反気味の口縁部全面に貝殻条痕を施した後、平行する2条の貝殻腹縁圧痕文を施し、その下位には逆三角形を連続させたような貝殻腹縁圧痕文が施文されている。内面の調整は剥離が激しく明瞭にならない。
21. 口縁部に平行する3条の貝殻腹縁圧痕文を施し、その下位にはN字が連続するような貝殻腹縁圧痕文が施される。口唇部には細かい刻目が見られる。内面はナデ調整。
22. やや粗雑であるが21と同様の外面施文で、口唇部の刻目も見られる。器壁は薄く内面は部分的に剥離しているが、ナデ調整のようである。
23. やや内向する口縁部で、縦方向に2条の貝殻腹縁ないし工具による連続圧痕文を施し、その上から同様に横方向に施して方形の枠目の文様を描き出している。内面は横方向のケズリの後、ナデ調整を施している。

D類（24～25）；貝殻腹縁文を全面に施す類

24. 外面に横方向ないし斜方向の貝殻腹縁圧痕文（連点状）を器面全体に施す。内面には縦方向のケズリ調整が認められる。
25. 外面に横方向の貝殻腹縁圧痕文（連点状）を器面全体に施す。内面にはケズリ及びナデ調整が見られる。

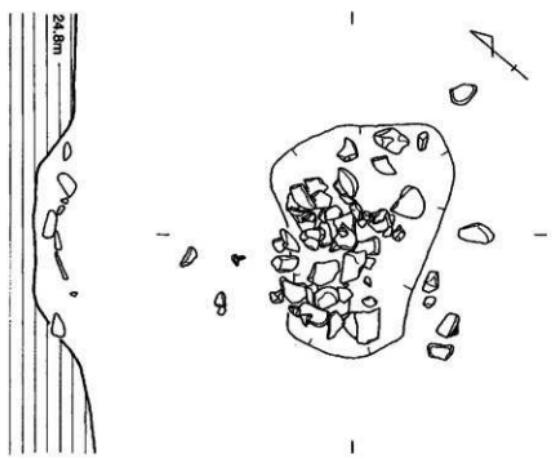
E類（26～29）；綾杉文を施す類

26. 口唇部の平坦な浅鉢。外面全体で綾杉文の上から貝殻腹縁圧痕文を施すが、これらは口縁部で横方向、胴部では斜方向を示している。内面はナデ調整。
27. 外面全体に綾杉文が施されるが、26に比較すると粗雑である。内面はナデ調整で胎土に白色及び透明の鉱物が多く含まれる。
28. 外面は綾杉文の上から1条の貝殻腹縁圧痕文が施されており、内面はナデ調整。26と同一個体である可能性もある。
29. 底部に近い部位の小片で、粗雑な綾杉文がやや斜方向に施文されている。内面はナデ調整。

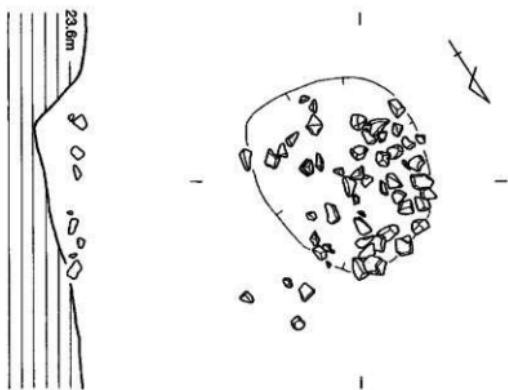
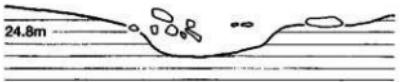
F類（30～33）；その他の類

30. 口縁部の外面に平行する2条の貝殻腹縁圧痕文を施す。内面はケズリ調整。
31. 外側にやや張り出した口唇部を有し、外面には2条の貝殻腹縁圧痕文、その下位にはヘラ状工具によるものと思われる斜方向の刻目が見られる。内面はケズリの後、ナデ調整。
32. 外面に連続する斜方向の貝殻腹縁圧痕文を施す。内面はナデ調整。
33. 平底の底部、圧痕は認められない。

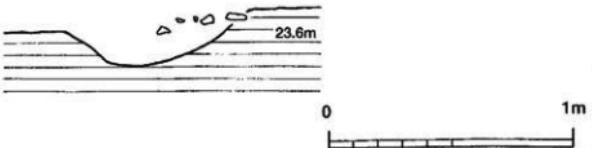
石錘 径約6cmの両端打欠石錘。石材は砂岩質。



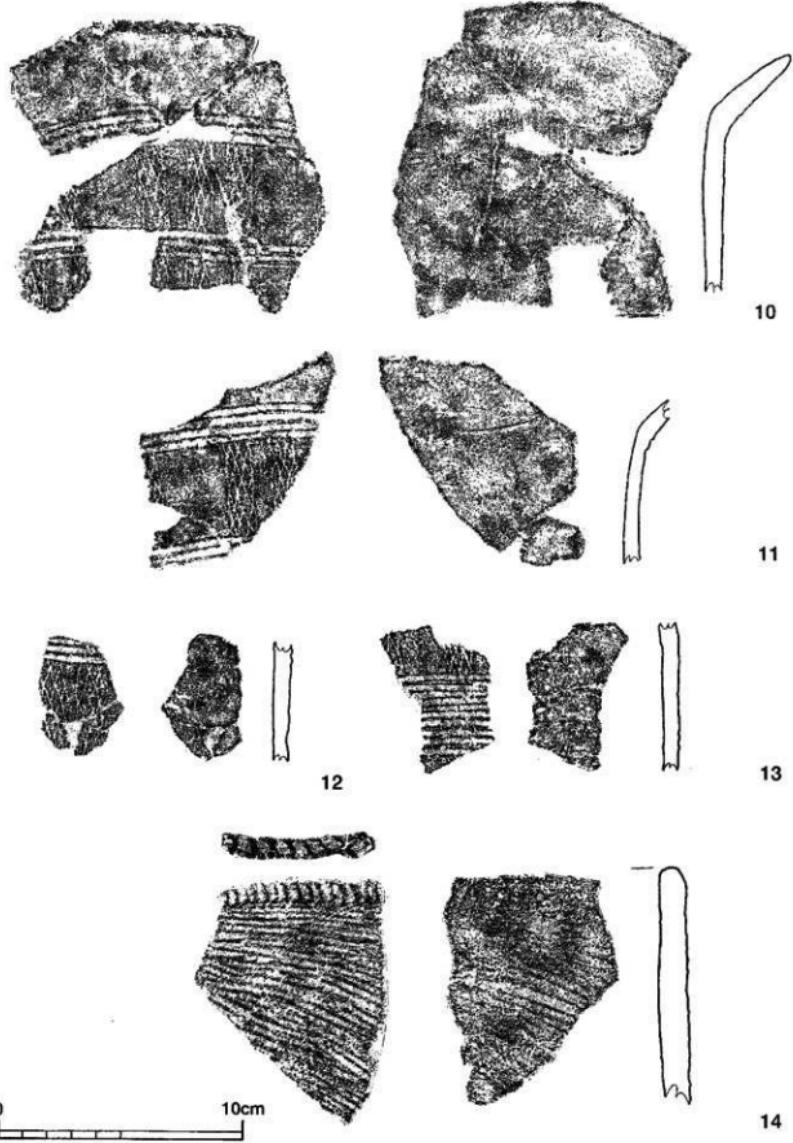
1号集石



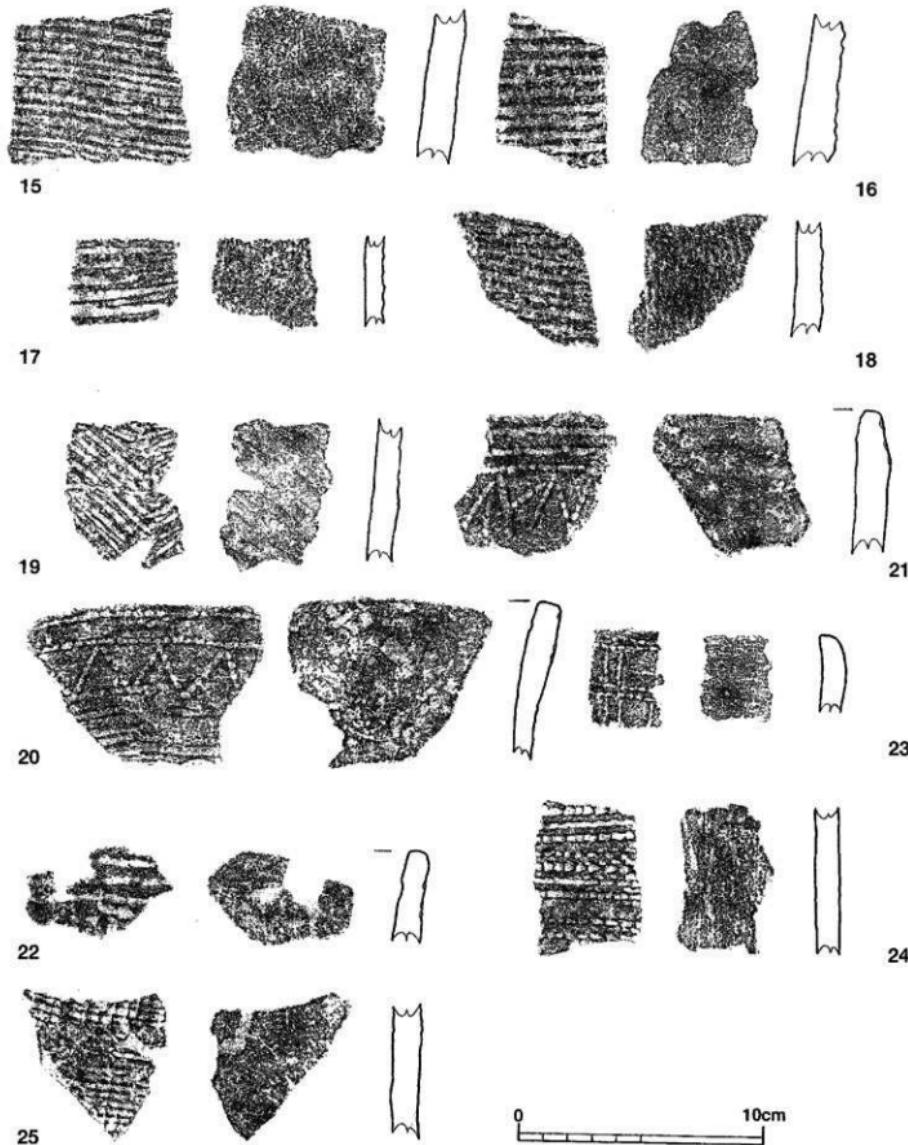
2号集石



第6図 繩文時代早期遺構実測図 (1/20)



第7図 繩文時代早期遺物実測図 (1) (1/2)



第8図 繩文時代早期遺物実測図 (2) (1/2)



26



27



28



29



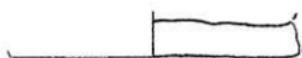
30



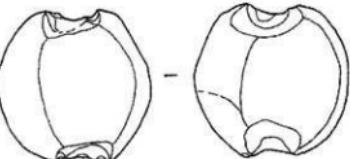
31



32



33



第9図 繩文時代早期遺物実測図 (3) (1/2)

縄文時代早期土器観察表

No	層	色　　調	備　　考	No	層	色　　調	備　　考
10	VI	外面：明黄褐 10YR6/6 内面：にぶい黄橙 10YR6/4	塞ノ神式縦糸文	29	VI	外面：にぶい橙 7,5YR6/4 内面：明褐 7,5YR5/6	綾杉文
11	VI	外面：にぶい黄橙 10YR6/4 内面：にぶい黄橙 10YR6/4	塞ノ神式縦糸文	30	VII	外面：明赤褐 5YR5/6 内面：明褐 7,5YR5/6	
12	VI	外面：にぶい黄橙 10YR6/4 内面：灰黄褐 10YR5/2	塞ノ神式縦糸文	31	VII	外面：明赤褐 5YR5/8 内面：明赤褐 5YR5/6	
13	VI	外面：にぶい黄橙 10YR7/3 内面：にぶい黄橙 10YR7/3	塞ノ神式縦糸文	32	VI	外面：にぶい赤褐 5YR4/3 内面：明赤褐 5YR5/8	
14	VII	外面：にぶい黄橙 10YR6/4 内面：明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕	33	VII	外面：橙 7,5YR7/6 内面：にぶい橙 7,5YR7/4	
15	VII	外面：にぶい黄橙 10YR7/4 内面：にぶい黄橙 10YR7/3	貝殻条痕				
16	VII	外面：にぶい黄褐 10YR5/4 内面：灰黄褐 10YR5/2	貝殻条痕				
17	VII	外面：明黄褐 10YR6/6 内面：にぶい黄橙 10YR7/4	貝殻条痕				
18	VI	外面：橙 7,5YR6/8 内面：にぶい黄橙 10YR6/3	貝殻条痕				
19	VII	外面：明赤褐 5YR5/8 内面：明褐 7,5YR5/6	貝殻条痕				
20	VII	外面：灰黄褐 10YR5/2 内面：にぶい黄褐 10YR5/4	貝殻腹縁压痕文				
21	VI	外面：にぶい黄橙 10YR7/4 内面：にぶい黄橙 10YR7/3	貝殻腹縁压痕文				
22	VII	外面：橙 7,5YR7/6 内面：にぶい黄橙 10YR6/3	貝殻腹縁压痕文				
23	VII	外面：明褐 7,5YR5/6 内面：明褐 7,5YR5/6	貝殻腹縁ないし工具压痕文				
24	VII	外面：橙 7,5YR7/6 内面：にぶい黄橙 10YR7/3					
25	VII	外面：にぶい黄橙 10YR6/4 内面：にぶい黄橙 10YR7/4					
26	VI	外面：橙 7,5YR6/6 内面：にぶい黄橙 10YR6/4	綾杉文				
27	VII	外面：褐灰 10YR4/1 内面：にぶい黄褐 10YR5/3	綾杉文				
28	VII	外面：橙 7,5YR6/8 内面：にぶい黄褐 10YR5/3	綾杉文				

図 版

図版1 調査状況写真



遺跡近景



精査着手



縄文時代後晩期遺物出土状況（A・B・C区）



アカホヤ面遺構検出状況



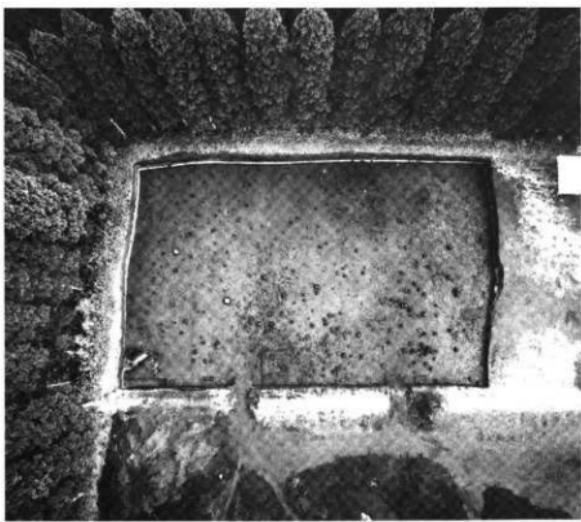
アカホヤ面検出溝状遺構



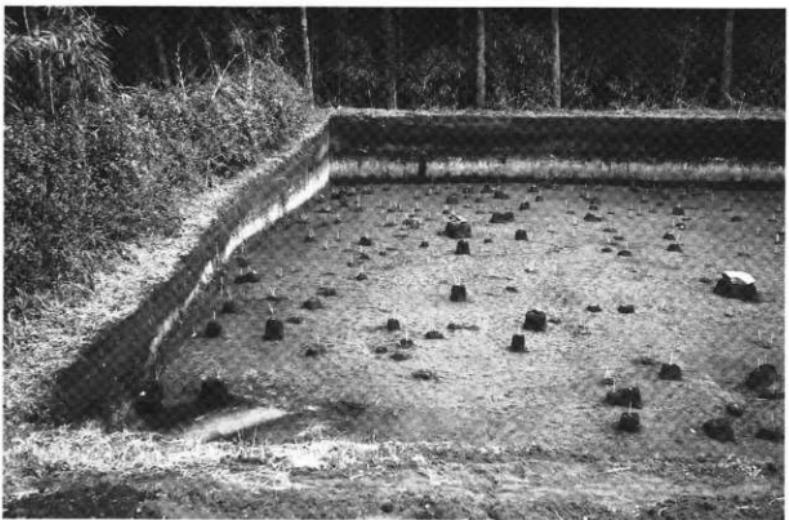
溝状遺構出土磨製石斧



遺跡全 景



繩文時代早期遺物出土状況



縄文時代早期遺物出土状況（A・D区）

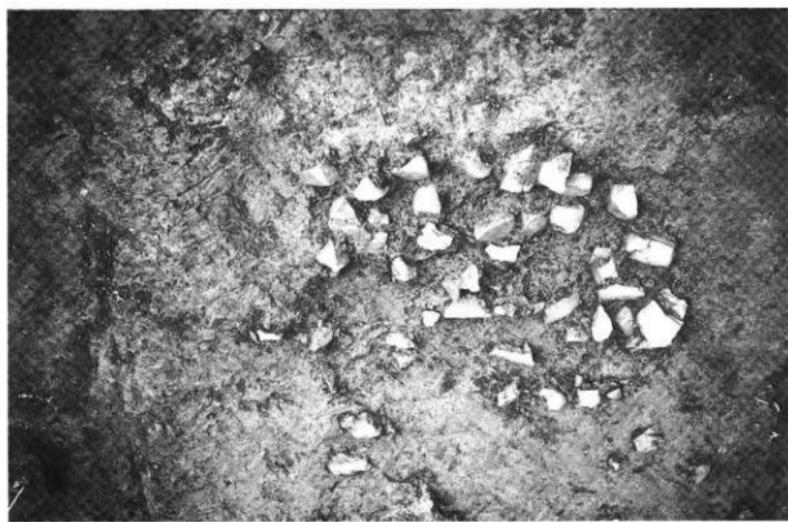


縄文時代早期遺物出土状況（B・C・E・F区）

図版2 繩文時代早期遺構検出状況写真

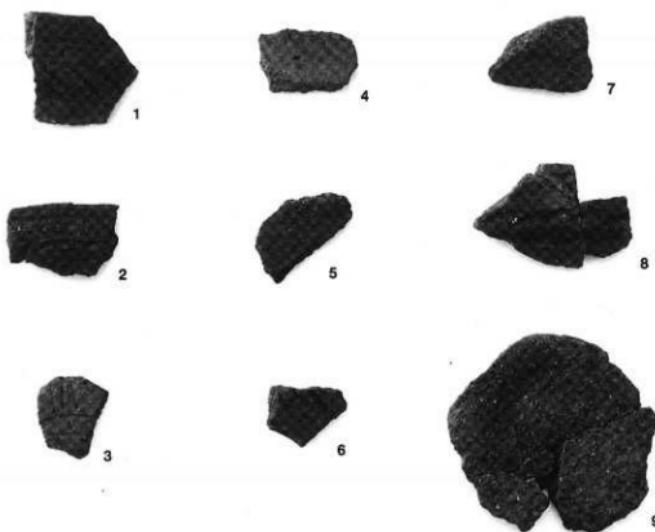


1号集石



2号集石

図版3 繩文時代後晩期遺物写真



図版4 繩文時代早期遺物写真



10



12



11



13



14



17



15



18



16



19



20



22



21



23



24



25



26



27



28



29



30



32



31



33

結　び

今回調査を行った上篠原遺跡は、同台地上のほぼ全域に展開するものと思われる遺跡の一端である。その立地は縁辺部に当たり、調査面積も限られたものであったため、広範囲な遺跡の性格を把握する十分な資料が得られた訳ではない。しかしながら、当遺跡は本城地区において初めて学術的に調査された遺跡であり、縄文早期文化が確認されたことは意義深い。今後、同台地を含む周辺の資料が発見され、広域的な視野での考察が成されることを期待したい。

参考文献

1. 田野町文化財調査報告書第19集『八重地区遺跡』
田野町教育委員会 1994
2. 田野町文化財調査報告書第32集『本野遺跡』
田野町教育委員会 1999
3. 「門川南町遺跡」 宮崎県教育委員会 1996
4. 串間市文化財調査報告書第11集『奈留地区遺跡』
串間市教育委員会 1994
5. 串間市遺跡詳細分布調査報告書（I） 串間市教育委員会 1990
6. 串間市史 串間市教育委員会 1996

報告書抄録

フリガナ	ウエシノハル
書名	上篠原遺跡発掘調査報告書
副書名	携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	串間市文化財調査報告書
シリーズ番号	第21集
編集者名	宮田浩二
発行機関	串間市教育委員会
所在地	宮崎県串間市大字西方6524-58番地
発行年月日	2000年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ウエシノハル 上篠原遺跡	クシマ オンショウ 串間市大字本城 ウエシノハル 字上篠原	31° 25' 50" 付近	131° 16' 20" 付近	19981207 19990323	430m ²	携帯電話無線 基地局建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
包蔵地	縄文早期	集石遺構	縄文土器 石器			